

## 国際アカデミー in 札幌開催（案）

### 1. 【事業実施に至る背景】

メンバー資質の向上を図るとともにLOMの活性化を行なうため、また国際都市・札幌を対内外かつ国内外へ強く発信するため、JCI公認プログラム第25回国際アカデミー誘致に立候補する。

### 2. 【事業目的】（対外）

国際都市・札幌の魅力を世界に広く発信する。

### 3. 【事業目的】（対内）

国際アカデミーの誘致活動を行うことで、開催に向けた気運とLOMの結束を高める。

### 4. 【事業内容】

#### （1）対内向け誘致メリット

- ① 2000年世界会議札幌大会以降、LOMメンバーが一丸となって、世界（全国）規模のプロジェクト成功に向けた事業があまりなく、本事業を誘致することにより、LOMの結束力を高めることはもとよりメンバーの資質向上や次代の札幌青年会議所の活性化にも寄与できるものと確信します。
- ② LOMメンバーには、普段接することのない海外デリゲイツに対し様々なプログラムを提供し、各々が自らの役割を徹しおもてなしすることで、新たな絆を生み出すとともに国際交流の素晴らしさを体験できるものと強く考えます。
- ③ 札幌・日本の風土や伝統文化を市民協働で海外・国内デリゲイツへ伝えることにより、我々の住む地域や国に誇りを持ち郷土の歴史・精神性を深く捉え直すことで、今後のLOMの運動強い使命感と自信を持つと共に、地域への公益について再認識することができます。

#### （2）対外（市民）向け誘致メリット

- ① 海外・国内デリゲイツ含め130名程度なので大規模な経済効果は見込めませんが、海外デリゲイツは将来の本国の指導者候補者もしくは財界のリーダー候補者であり本事業を通じて「札幌」をPRすることができたのならば、国際都市かつ観光都市・札幌への先行投資に十分になりえます。
- ② 海外デリゲイツと市民がホームステイプログラム等で交流することにより、日本・札幌と海外の違いを知ることができ、広い視野を持ち、国際感覚を養うことができます。一方、市民が札幌の魅力を海外デリゲイツへ発信することもでき、引いては今後の国際交流事業にも積極的に参加され、真の国際都市・札幌へと変貌するものと考えます。

### (3) 事業の流れ

#### 2011年

4月1日～5月末日 第24回（2011年度）国際アカデミーin富山  
国内デリゲイツの参加者募集期間

日本JCへ第25回国際アカデミー誘致立候補の表明

7月3～8日 第24回国際アカデミーin富山 開催

9月30日 全国会員大会（名古屋）理事会にて  
第25回国際アカデミー誘致先決定

<以下の予定は、札幌開催決定の場合>

（随時） 日本各地LOMの周年事業にてPR

11月1～5日 JCI世界会議（ベルギー）にてブース出店・PR、  
並びにVIPランチョン開催

#### 2012年

1月 JCI理事会（セントルイス）にてPR

1月下旬 京都会議にてPR

5月（予定） プレアカデミー開催  
ホストファミリー・通訳ボランティア向け事前説明会

6月 ASPAC（香港）にてPR

7月（予定） 第26回国際アカデミー開催

## 札幌開催テーマ（案）

「 Boys, be ambitious（少年よ、大志を抱け）」

北海道の開拓精神（フロンティアスピリット）を語る上で、札幌農学校（現北海道大学）初代教頭ウィリアム・スミス・クラーク氏（以下、クラーク博士）はそのシンボリック存在であります。



クラーク博士のお言葉「Boys, be ambitious」を国際アカデミー in 札幌のメインテーマにすることにより、ゼロから始まった北海道開拓時の精神、強い想いがあれば夢は実現できるということを国内外のデリゲイツに再認識してもらう。

### ◇開催日程・・・２０１１年６月初旬

①気候的に温暖で降水量も少なく穏やかである。

②札幌最大のイベントの開催時期である。

「ＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭り」（２０１１年６月８日～６月１２日）に開催を合わせることで、デリゲイツに踊ることの楽しさ、仲間との一体感を学んでもらう。また、「ＹＯＳＡＫＯＩソーラン祭り」で優勝したチームを海外デリゲイツの国に派遣し、交流を図ってもらう。

### ◇独自プログラム

（１）北海道に縁のある方の講演

①北海道大名誉教授の鈴木章氏（２０１０年ノーベル化学賞を受賞）

②札幌市在住の登山家・栗城史多氏

（２）農業・酪農を学ぶ

（３）日本の伝統（お正月・日本的な立ち振る舞い）を学ぶ

（４）北海道の観光をＰＲできるプログラム（観光ツアー）

（５）「Boys, be ambitious」を実践するプログラム